

ノンフィクション（伝記）教材から「生き方」を考えさせる授業開発 —「炎を見ろ」（伴田薫）の習得から論理的な読書レポート作成（活用）へ—

佐藤 洋一* 吉川 和良**

*教職実践講座

**豊橋市立吉田方中学校

A trial to Develop a Class of the Japanese Language: By Reading Some Work of Nonfiction (Autobiography Etc.), Let Pupils Think about Their Own Lives -how do They Write Logical Reports After Grasping the Content of 'Watch the Flame' By Handa Kaoru and Apply Its Thought to Their Own Lives -

Yoichi SATO* and Kazuyoshi YOSHIKAWA**

*Graduate School of Practitioners in Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

**Yoshidagata Junior High School, Toyohashi 441-8006, Japan

1 「伝記」「事実の記録」と読書力

(1) 生き方を模索する子どもたちと読書実態

多様な価値・情報が氾濫する現代にあり、小中・高校における児童生徒の主体的な読書力・習慣や態度育成の重要性が叫ばれ、様々な形で読書に親しむ指導が行われている。こうした中で全く読書をしない児童生徒がいる半面、読む本は横書きの「ケータイ小説」や映画やドラマ・ゲームの原作本、童話や絵本、アニメの原作本等多岐にわたっている。

一方で小学校4～5年生くらいから中・高校にかけて生きた証（事実の記録）として伝記や著名人（スポーツ選手や芸能人、難病に侵された方等）の手記や自伝を読む、テレビ報道ドキュメンタリー（記録）番組を見ることを好む児童生徒たちが増加する。

物語・小説等のいわゆるフィクションから「筆者による事実の記録の再構成と主張（現代文明批評）」としての伝記や手記・ドキュメンタリー・ルポルタージュ等の「ノンフィクション」に子どもたちが興味・関心を持つのは何故か（また、本稿の提案から外れるが、愛や生きる知恵、自分の弱さと闘う勇気の大切さ、人を信じることの意義等をテーマにしていることが多い「ファンタジー文学」を読書嫌いの子どもの夢中になって読んでいるのは何故か）。

それは児童生徒たちが思春期を迎え「自己の生き方」を、家族・社会・友人、時代の正義や悪・多様な価値観等との関係から、必死に模索し始めている一つの現

れとみることができる。意識的無意識的にせよ「この世界は生きるに値するか」「自分が生きる意味は何か」「人間は信じていることができるのか」等と問いかけ自問自答している姿と考えられる。

(2) 国語科での位置・指導と評価観が曖昧

—小学校高学年・中学校教材としての「伝記・記録・ルポルタージュ・ノンフィクション」—

新学習指導要領「国語科」の「言語活動例」には、小学校高学年で「伝記を読み生き方を考える」項目が指導すべき事項として明記された。筆者によって再構成された「事実の記録」という情報と向き合い、自分の生き方を考えさせる言語活動の一つである。こうした位置づけは、巨視的には記録・報告等の「情報」を論理的に読み解く「受信型の学力」とともに、自分の立場から考えや意見を持ち「論理的に書く（まとめる）・話す聞く（伝える・交流・評価）する「発信・交流・批評型」の「思考・判断・表現力」が重視された、と読むことができる。

これは同時に、国際的な学力調査等で「活用力」とともに「学びの楽しさ・主体性（学習習慣）」に課題がある日本の子どもたちの学びを変える、一つの重要なステップになるとみることができる。

これまでの国語科授業では文学・説明文（論理的文章）は「受信型中心」の、いわゆる読解指導がほとんどであった。文学教材では内容読解や中心人物の心情・主題の理解に重きが置かれ、説明文の指導では語句の意味や形式段落の要約、筆者の主張を読み取る学習に

重きが置かれてきた。^{1・2・3・4}

伝記教材にはこれまで「マザーテレサ」(真鍋和子・東京書籍小5)「宮沢賢治」(西本鶏介・同小6)「イーハトーブの夢」(畑山博・光村図書小6)「田中正造」(来栖良夫・教育出版小6)「無医村の優しい人々」(渡辺啓子・同中3)「洪庵のたいまつ」(司馬遼太郎・大阪書籍小6)等の伝記・ルポルタージュがある。

新学校教育法・新学習指導要領を踏まえた平成23年版小学校教科書では、新たに伝記として「手塚治虫」(国松俊英・東京書籍小5)、「百年後のふるさとを守る」(河田恵昭・光村図書小5)、伊能忠敬(国松俊英・教育出版小6)等の他、事実の記録(説明文)としての「平和のとりでを築く」(大牟田稔・光村図書小6、継続)、NHK テレビドキュメンタリー番組の教材化「千年の釘に挑む」(内藤誠吾、同小5)「みすゞさぎの旅」(矢崎節夫・教育出版小5)、ルポルタージュを文章化したものとして「森へ」(星野道夫・光村図書小6、継続)等が収録されている。

しかし、これらの教材は文学とも説明文のどちらかに分類することは難しく、研究的にも実践的にも扱われることは多くなかった(例『国語教育研究大辞典』明治図書1988年には「ノン・フィクション」の解説(658～659頁)があるが、小中学校における伝記やノンフィクションの指導と説明文・文学教材との関連性については論じられていない)。

また、文種別指導の考え方では、「記録」や「伝記」などの項目はあるものの、その特質や構造を踏まえた指導と評価、紹介文の書かせ方については述べられていないのが現状である。⁵

(3) 主体的な批評力・読書力を育てるステップに

ここでいう「ノンフィクション(教材)」とは実際に起こった歴史的な事実や出来事を、筆者の立場や課題意識(語り)から児童生徒向けに必要なエピソードや事件・事実を再構成したものである。

19世紀文学(芸術)がフィクションとリアリズムによる近代市民社会の真実や深層の発見であった(個性的な人物像の描出による近代社会の表現)のに対して、いわゆる「ノンフィクション」は第一次大戦後の20世紀に発達したジャンルであり、「事実の記録・再構成による現代文明批評」という特質を持ち、どのような立場から・対象の何を・どのような観点から・どのような表現技術で語るのかが重要である。これらは詩や小説の「描写・語りの技術、エピソードの選択と構成」と、科学的に現象・事実を記録検証する「記録の技術(数字や場所・変化や経緯の記述、写真や映像の活用)」等を生かし、その現代的な意味を明らかにするという性質を持つ。教科書におけるルポルタージュ・記録・伝記教材等も、これに含めて考えることが可能である。

本稿は、ノンフィクション教材の授業開発は新学習指導要領で期待されている主体的な批評力・読書力を

育てるステップになるという立場から、児童生徒が興味をもって読もうとしている伝記やノンフィクション教材とは何がわかり、どう読み、評価したり「自分の考え」を持てばいいのか。これらの学習を通して「生き方を考えさせる」とはどのように指導すればいいのか等について、具体的な実践事例をもとに論ずる。

ノンフィクション教材を国語科の授業で扱うことは論説や報道・記録の読み方とともに詩歌や小説の描写・語りの技術を読み、活用する学習方法を教えることであり、これからの時代に求められる論理的な批評力・読書力、主体的に学習に取り組む意欲の育成にも生かすことができると考えられる。

2 「習得」を生かし他への活用・探究につなげる—学習計画・学習シートの開発と活用—

(1) 「習得(基礎・基本)から「活用」「探究」へ—「5段階の学習過程」論という枠組み—

本実践では、伴田薫「炎を見ろ—赤き城の伝説—」(『中学校国語3』光村図書)(以下「炎を見ろ」と略記)をノンフィクションを読む「学習のモデル(基礎・基本)」として扱い、学習したことを生かし他のノンフィクション作品の魅力論理的に伝えるための学習計画を作成した。書かれている内容の正確な理解、「自分の立場からの情報解釈・構成・批評する力」「自己の生き方の見直し」である。

①基礎学習(習得1)【2時間】

学習意欲の楽しい喚起・学習計画の見通し・何をどう学ぶか「到達目標・評価」を知る。

②基本学習(習得2)【3時間】

「炎を見ろ」によるモデルがくしゅう。ノンフィクションの文章構成・事実や会話、語りから人物のものの考え方や思いを理解する。筆者のメッセージ(主張・批評)を理解しノンフィクションを読む楽しさと方法理解。

③「習得」から「活用」(活用1)【4時間】

②でのモデル学習を生かし他のノンフィクション作品を読み読書記録にまとめる。自分の考えを持ち「論理的な読書報告文」作成。

④発信・交流学习(活用2)【1時間】

読書報告会を開き、ノンフィクションを読むことの楽しさ・自分の考え等を伝え合う。

⑤評価・一般化学習(振り返り)【1時間】

学習内容・方法を振り返り、他教科学習や今後の生活・生き方、読書活動等に生かす。

(2) 習得したことが活用できる「学習過程」

—学力保証の「学習シート開発」—

(1)の学習過程の内容を全員に確実に学ばせるために「学習シート」を開発し活用する。本稿における学

習シートは、単なる形式的な穴埋めシートでない。全員に「習得」させる到達目標（評価基準）のシンプルな定着化、ノート・学習記録、自分の考えを持たせる、論理的な報告モデル等の意味がある。

特に、各段階での学習内容に対し「今日の授業で学べることは何か」（習得から活用へのステップや身につけるべき学力の明確化）や「ノンフィクションで学べること、応用できることは何か」等、生徒自身にもわかるように作成した。

全員が楽しさと学びの見通しをもって意欲的にノンフィクションを読むことに取り組むことができるとともに、ノンフィクションの読み方（習得2）や基本モデル学習で学んだことの確認と定着（活用1）、記録の方法（活用1）のモデルとし、他教科の学習や読書にも生かすことができる。⁶

3 実践の概要

(1) 生徒の実態

読み解く学力では内容を正確に読み取ることのできる生徒が多い反面、どの部分に注目して読めばいいのかということ自分で考えて読み取り・活用できる生徒は少ない。物語・小説なら中心人物の変化だけの読み取り、説明文なら結論の読み取りと要約にとどまってしまう生徒が多い（指導体制の反映）。

「自分の考え」は書けるが「論理的な構成の型」を理解し書いたり（習得⇒活用）、資料・引用等の言語技術については指導されていないため、全く苦手な生徒が多い。報告や交流・学び合いの場面でも表面的に報告することはできるが、相手意識や主張・資料等を考慮した意見交流は消極的である。

(2) 学習目標—読み方のモデル学習から活用—

- ①ノンフィクションの特徴を理解し、事実や人物の思い・筆者の主張を正確に読み取ることができる。
- ②様々なノンフィクションを読み、読書記録をもとにして論理的な読書報告文を書くことができる。
- ③読書報告文の内容を発信・交流する活動を通して、「自分の生き方」を考えたり新たな読書意欲を高めたりすることができる。

(3) 評価規準（基準）のポイント

- ①ノンフィクションは説明文と小説の特徴を持ち合わせていることを理解し、「炎を見ろ」の構成や書かれている事実を正確に読み取り、筆者の語りや登場人物の会話から登場人物の生き方や行動（人物の成長・困難に挑むための知恵や努力の大切さ）を正確に読み取ることができる。

【文章の論理展開・筆者の主張・場面設定他】

- ②「炎を見ろ」で学習したことを生かし他のノンフィクションを読んで読書記録にまとめる。「はじめ・なか・まとめ・むすび」の論理的な4つの構成の型で読書報告文を書くことができる。

【論理的な構成の型・適切な引用の仕方】

- ③読書報告文の発信・交流する学習を通し、他のノンフィクション作品を読んだり、読書をもとに自己の生き方を考えたりすることができる。

【話し方の工夫・聞き取った内容の生かし方】

(4) 学習計画（11時間完了）…【資料1】参照

【資料1】			
段階	時	主な学習活動	ねらい・支援
習得1	1・2	1 筋読により全文を通読する。 2 新出漢字や難語句の意味を調べる。 3 興味をもったこと、疑問に思ったこと、考えたことをまとめる。	・ 疑問や初めて知ったことなど興味をもたせながら読ませることで学習の意欲を高める。 →学習シート1・2
習得2	3・4・5	1 文章構成を理解する。 2 事実を正確に読み取って、登場人物の考え方を理解する。 3 筆者の描写や引用から、人物の思いを正確に読み取る。	・ 全体の構成をつかませる。 ・ 事実を正確に読み取ることで、登場人物の考え方の変化に気づかせる。 ・ 筆者の描写や引用（会話文）から、登場人物の思いを読み取らせる。 →学習シート3・4・5
活用1	6・7・8・9	1 「炎を見ろ」で学習したことを生かして他のノンフィクション作品を読む。 2 情報を再構成して、論理的な読書記録にまとめる。	・ 様々なノンフィクション作品を用意する。 ・ 読書記録にまとめることを意識させて読書させる。 →学習シート6・7
活用2	10	1 読書記録をもとにしてノンフィクション作品を紹介する。 2 発表を聞いて意見をもち、意見を交流する。	・ 発表の要点を考えさせることで、自分が読んだ作品の魅力が伝わるようにする。 ・ それぞれの読書記録に対して感想を述べ合うことで、新たな読書意欲を喚起させる。 →学習シート8
評価・一般化	11	1 学習を振り返る。 2 学習したことや、できるようになったことを発表し合う。	・ 評価の観点に従って、自己評価をし、学習したことを一層化させる。 ・ 学びの振り返りから探究型学習への発展を意図させる。 →自己評価カード

4 教材の特質と生かし方

(1) 教材の特質と構造

ノンフィクションの読み方の基礎・基本を習得させるために「炎を見ろ」を用いる。文章はNHKのテレビ番組「プロジェクトX」の内容を文章化したものである。太平洋戦争で焼失した沖縄を代表する建物である首里城の再建に向け、独特の伝統的な「瓦」を復元した男の闘いと誇りを、葛藤や苦悩も含めて会話や語りによって再構成したものである。

当時、復元が大変困難であることが予想され、誰もが復元の意欲を起こそうとしなかった「赤瓦」の復元過程が語られている。伝統復活にかける闘いと誇り、困難に挑む熱意等を通じて歴史に関わる人間の生き方や素晴らしさ・成長を読み取ることができる。

(2) 教材の生かし方

「炎を見ろ」はノンフィクションの特徴である、論理的な構成の枠組み、人や物の変化と出来事の背景（社会の様子や歴史など）がエピソード・会話と語り等によって書かれており、他のノンフィクション作品の読書や批評にも生かすことができる。⁷

歴史に関わる行為や誇り、困難に挑む意志の強さ、自らの行為が郷土の歴史や文化・生活に生かされていくことの喜び等の記述は本教材の特徴でもある。こうした部分に、全員に楽しく気づかせることが他のノンフィクション作品を読むときのポイントにもなり、習

得した内容を活用するステップにもなる。

5 指導の実際—ポイントのみ記述—

(1) 基礎学習（習得1）【2時間】

学習意欲を喚起させるために、沖縄の歴史や文化について「クイズ形式」で理解をさせた。「導入資料（省略）」をテレビ画面に映し楽しく導入を行った。①沖縄県は沖縄本島以外の島も含まれている、②九州よりも中国や韓国の方が距離的に近い、③シーサーの意味と由来やモデル、④沖縄独自の城と他の城との違い（意味）、⑤“沖縄”の由来（語源）等。

本文の中心となる「首里城」に関しては名古屋城の写真と並べて比較させて色使いの違いに気づかせた。ノンフィクションというジャンルの身近さについては、資料2（学習シート2）で学習させ、その後で教材「炎を見る」を範読した。ノンフィクションの特徴でもあるエピソード・会話や語りに注目して読む（聞く）ように指示した感想を書かせた。

(2) 基本学習（習得2）【3時間】

資料3～5（学習シート3～5）を使い、教材文の正確な理解とノンフィクションの特徴や表現の効果、筆者の主張について生徒が気づけるようにした。

資料3（学習シート3）では、ノンフィクションの構成と教材文の内容が理解できるようにした。後の読書活動に生かせるように「ノンフィクションの読み方」の欄を作り、ノンフィクションを読む時の着眼点を示し授業でも生徒がノンフィクションの特徴に気づけるようにした。また、文章の大体の内容が理解できるように「構成」を確認しながら主要なキーワードを記入させ授業を進めた。キーワードは事実となる事柄を記入させ、「論理的な説明文の読み方」が基本であることに気づかせた。

資料4（学習シート4）では「筆者の事実・エピソードの選び方と効果」が考えられるように、数字に着目した学習シートを作成した。瓦を焼くときの温度の比較、父親が息子に用意した土地の広さや融資の金額等に注目したりできるようにした。父親が息子に用意した土地の広さ（380坪）は自分の家の土地の広さ等と比較した時、その広さに思わず「半端ないじゃん」とつぶやく生徒が多くみられた。

資料5（学習シート5）では会話や筆者の語り、描写から中心人物の首里城復元にかかる思いや中心人物の変化・父親の変化に気づけるような学習シートを作成した。会話の引用・筆者特有の表現を用いることで出来事の重大さに説得力をもたせていることに気づかせた。中心物の変化だけでなく父に関する会話や描写についても触れ、父が息子の見方をどのように変化させていったのかにも気づけるようにしたことで、「父の立場・視点」からも読むことができる文章である。

(3) 応用・個性化学習（活用1）【4時間】

「炎を見る」で習得したノンフィクションの読み方を生かして生徒自身でノンフィクションの本を選び、その内容と自分の考えを論理的な読書報告文（レポート）としてまとめさせる学習を行った。

読んだ内容と考えを資料6（学習シート6）の読書記録にまとめさせた、学習シート6は基本モデル学習で学習した内容がわかるように項目を立てた。読書記録を用いて資料7（学習シート7）に報告文を書かせた。論理的な構成になるように「はじめ」「なか」「まとめ」「むすび」の4段階構成とし、学習シート6の内容をどの段落に書けばいいかを生徒たちが考えたうえで文章を書かせた。多くの生徒がスムーズに書くことができ、「読書感想文に生かせるんだ」という発見のつぶやきも多く聞かれた。

(4) 発信・交流学习（活用2）【1時間】

4人グループで自分が読んだ本の魅力を伝え合った。発表前に、読んだ本の魅力が伝わるためにはどのような発表の工夫が必要かということを考えさせ発表のポイントを共有させたうえで発表を行った。資料8（学習シート8）に聞き取る観点を示し、簡潔にメモすることができるようにした。発表が終わった後で聞き取った内容をもとに聞き手の一人ひとりが本の魅力や疑問などについて意見を述べ、話し手と考えを交流させた。始めは一人の発表と交流を4分で行う予定であったが、5分の間でも意見交流が途切れることなくグループでの意見交流に止まってしまった。グループの中で一番魅力的な本を選び、その生徒の欄（選ばれた本人は自分の名前の欄）を赤色で囲ませた。

6 実践の考察と課題

(1) 「5段階の学習過程」と学習シート開発

本稿では、伝記・記録・ルポルタージュ等のいわゆる「ノンフィクション教材」の読み方と魅力に気づかせるモデル学習を通じて、「自分の考え」を持ち論理的な報告を書く学力や主体的批評的な読書力を鍛えるための授業開発、指導過程論・学習シート開発等を提案した。段階的な学習過程や開発した学習シートによる授業展開は、普段国語の授業を苦手としている生徒たちには非常にわかりやすかったようである。また、国語が得意な生徒は何がどうなればいいのかという到達度と評価の観点が鮮明だったため、毎時間の学習の重点や評価をよく理解した上で楽しく学習していた。

「各時間に学ぶべきことや考えることがどの生徒にも明確にわかり意欲的に取り組むことができた」と考えられる。例えば、学習シート3ではかなり長い教材文を1枚の学習シート（構成とキーワード・内容のポイント）にまとめた時点で、「1枚で文章全体とポイントがわかる」と生徒たちが気づいた。そのため意欲的な学習姿勢が継続した。

三年 国語科 学習シート14 表を見ろー 非虚构の伝記 伴田 真

表見ろー (赤田) (藤原) (藤原)

又子ニコーノンフィクション(事実・生き方の記録)「にじりて知らず」

ノンフィクションとは

1 現実(起)の出来事からいくつかの特徴的な事実を筆者が選んで再構成して、文章(写真・資料)によってその出来事の現代的・人間的意義や価値を伝えるものノンフィクションです。
また、ある出来事をテレビ番組や映画などによってその意義や価値を伝えるものを「キコメニコー」記録として報道したものを「リアルタイム」リアルタイムと云います。

2 ノンフィクションの特徴

物語文の読み方：語り手(筆者)を通して、登場する人物の變化や関係、出来事の過程を読みとる。読み手が想像しやすいような表現の工夫がされている。

ノンフィクション

説明文の読み方：名前や時代、時代背景などの事実を読み取る。
例として引用の意味を調べて読む。

3 「炎を見る」の筆者の立場を理解しよう
(1) 「ロウソク」の筆者の立場をたずねて「番組の名前」をたずねよう。
(2) 「ロウソク」の番組を作った理由をたずねよう。
※「ロウソク」の番組を作った理由をたずねよう。
「ロウソク」の番組を作った理由をたずねよう。

又子ニコーノンフィクションの特徴をたずねよう。文章を読みながら「ロウソク」の番組を作った理由をたずねよう。

4 「炎を見る」は十の場面に分けられます。文章を読みながら「ロウソク」の番組を作った理由をたずねよう。

5 「炎を見る」の番組を作った理由をたずねよう。

6 「炎を見る」の番組を作った理由をたずねよう。

7 「炎を見る」の番組を作った理由をたずねよう。

8 「炎を見る」の番組を作った理由をたずねよう。

9 「炎を見る」の番組を作った理由をたずねよう。

10 「炎を見る」の番組を作った理由をたずねよう。

資料2 基礎学習 (習得1)

：「学習シート2」

→ノンフィクションは詩や小説で用いられている表現技術(描写・語りなど)と説明文で用いられる記録技術(数字や場所・変化や経緯の記述、写真や映像の活用など)の両方が用いられていることの理解。

→ノンフィクションとテレビ番組との関連から、ノンフィクションが生徒にとって身近なものであることの発見。

※それぞれの番組の表現の特徴について考えさせることで、表現技術に特徴があることに気づかせる。

三年 国語科 学習シート15 表を見ろー 非虚构の伝記 伴田 真

表見ろー (赤田) (藤原) (藤原)

又子ニコーノンフィクション(事実・生き方の記録)「にじりて知らず」

ノンフィクションとは

1 現実(起)の出来事からいくつかの特徴的な事実を筆者が選んで再構成して、文章(写真・資料)によってその出来事の現代的・人間的意義や価値を伝えるものノンフィクションです。
また、ある出来事をテレビ番組や映画などによってその意義や価値を伝えるものを「キコメニコー」記録として報道したものを「リアルタイム」リアルタイムと云います。

2 ノンフィクションの特徴

物語文の読み方：語り手(筆者)を通して、登場する人物の變化や関係、出来事の過程を読みとる。読み手が想像しやすいような表現の工夫がされている。

ノンフィクション

説明文の読み方：名前や時代、時代背景などの事実を読み取る。
例として引用の意味を調べて読む。

3 「炎を見る」の筆者の立場を理解しよう
(1) 「ロウソク」の筆者の立場をたずねて「番組の名前」をたずねよう。
(2) 「ロウソク」の番組を作った理由をたずねよう。
※「ロウソク」の番組を作った理由をたずねよう。
「ロウソク」の番組を作った理由をたずねよう。

又子ニコーノンフィクションの特徴をたずねよう。文章を読みながら「ロウソク」の番組を作った理由をたずねよう。

4 「炎を見る」は十の場面に分けられます。文章を読みながら「ロウソク」の番組を作った理由をたずねよう。

5 「炎を見る」の番組を作った理由をたずねよう。

6 「炎を見る」の番組を作った理由をたずねよう。

7 「炎を見る」の番組を作った理由をたずねよう。

8 「炎を見る」の番組を作った理由をたずねよう。

9 「炎を見る」の番組を作った理由をたずねよう。

10 「炎を見る」の番組を作った理由をたずねよう。

資料3 基本学習 (習得2)

：「学習シート3」

→ノンフィクションの構成のモデルとしての「炎を見る」の理解。

→キーワードとなる言葉(事実)から出来事の変化と人物の変化の両面の理解。

※ノンフィクションの特徴や表現の効果に気づけるように、「ノンフィクションの読み方」の欄を用いて、キーワードとその選び方や効果について考えさせる。

※中心人物だけではなく、他の人物(ここでは父親)の変化に着目させることで豊かな読解のポイントを習得させる。

著者		発行年(初版・新版)		出版社	
著者	2009年	2009年	7月	9日	2009年
読み始めの日					
読み終わった日					
読んだ本のタイトル					
著者の自己紹介					
1. 著者の経歴(生年月日・出生地・学歴・職歴・著書リスト)					
2. 著者の代表作(代表作の題名・内容の要約)					
3. 著者の功績(著者の功績を具体的に挙げて説明)					
4. 著者の影響(著者が社会に与えた影響を具体的に挙げて説明)					
5. 著者の将来(著者の将来の抱負や夢を具体的に挙げて説明)					
6. 著者の功績(著者の功績を具体的に挙げて説明)					
7. 著者の影響(著者が社会に与えた影響を具体的に挙げて説明)					
8. 著者の将来(著者の将来の抱負や夢を具体的に挙げて説明)					
9. 著者の功績(著者の功績を具体的に挙げて説明)					
10. 著者の影響(著者が社会に与えた影響を具体的に挙げて説明)					
11. 著者の将来(著者の将来の抱負や夢を具体的に挙げて説明)					
12. 著者の功績(著者の功績を具体的に挙げて説明)					
13. 著者の影響(著者が社会に与えた影響を具体的に挙げて説明)					
14. 著者の将来(著者の将来の抱負や夢を具体的に挙げて説明)					
15. 著者の功績(著者の功績を具体的に挙げて説明)					
16. 著者の影響(著者が社会に与えた影響を具体的に挙げて説明)					
17. 著者の将来(著者の将来の抱負や夢を具体的に挙げて説明)					
18. 著者の功績(著者の功績を具体的に挙げて説明)					
19. 著者の影響(著者が社会に与えた影響を具体的に挙げて説明)					
20. 著者の将来(著者の将来の抱負や夢を具体的に挙げて説明)					

資料6 応用・個性化学習 (活用1)

- ：「学習シート6」
- 基本学習で学習したことを項目に挙げ、学習内容を活用するステップとして生徒が選択して本を読み、内容をまとめていく。
 - ノンフィクションを読むことで自分の生き方について考えたことを整理する。

※読んだ本を紹介することまで考えて、「どんな人に勧めたいか」・「みんなに一言」の欄を用いて相手意識についても考えられるようにする。

著者		発行年(初版・新版)		出版社	
著者	2009年	2009年	7月	9日	2009年
読み始めの日					
読み終わった日					
読んだ本のタイトル					
著者の自己紹介					
1. 著者の経歴(生年月日・出生地・学歴・職歴・著書リスト)					
2. 著者の代表作(代表作の題名・内容の要約)					
3. 著者の功績(著者の功績を具体的に挙げて説明)					
4. 著者の影響(著者が社会に与えた影響を具体的に挙げて説明)					
5. 著者の将来(著者の将来の抱負や夢を具体的に挙げて説明)					
6. 著者の功績(著者の功績を具体的に挙げて説明)					
7. 著者の影響(著者が社会に与えた影響を具体的に挙げて説明)					
8. 著者の将来(著者の将来の抱負や夢を具体的に挙げて説明)					
9. 著者の功績(著者の功績を具体的に挙げて説明)					
10. 著者の影響(著者が社会に与えた影響を具体的に挙げて説明)					
11. 著者の将来(著者の将来の抱負や夢を具体的に挙げて説明)					
12. 著者の功績(著者の功績を具体的に挙げて説明)					
13. 著者の影響(著者が社会に与えた影響を具体的に挙げて説明)					
14. 著者の将来(著者の将来の抱負や夢を具体的に挙げて説明)					
15. 著者の功績(著者の功績を具体的に挙げて説明)					
16. 著者の影響(著者が社会に与えた影響を具体的に挙げて説明)					
17. 著者の将来(著者の将来の抱負や夢を具体的に挙げて説明)					
18. 著者の功績(著者の功績を具体的に挙げて説明)					
19. 著者の影響(著者が社会に与えた影響を具体的に挙げて説明)					
20. 著者の将来(著者の将来の抱負や夢を具体的に挙げて説明)					

資料7 応用・個性化学習 (活用1)

- ：「学習シート7」
- 「学習シート6」の内容を詳しくするようにしてメモを文章化していく。
 - 「はじめ」「なか」「まとめ」「むすび」の4段階構成を使った論理的な報告文の作成。

※構成ごとに書く内容を例示することで、多くの生徒が論理的な構成による文章を書くことができる。

※「学習シート6」で書いた内容が意識できるように、どの項目をどの構成に書けばよいのかを確認しながら文章を書かせることで、作文が苦手な生徒でも構成ごとに文章にまとめることができる。

資料8 応用・個性化学習 (活用2)

：「学習シート8」

- 読書報告文の内容を伝え合い、質問をしたり情報を共有したりすることを通して、自らの生き方について考える。
- 発表を聞いて自分の生き方について考えたり、新たな読書意欲が喚起できたりするように聞き取りのポイントを示した。

※発表の前に自分が読んだノンフィクションの魅力が伝わるための発表の仕方を考えさせることでプレゼンテーション能力を育てることができる。

学年 国語科 読書活動 (20) 総合学習—非連続の読書 佐田 隆

三年 (一)組 ()番氏名 ()

★みんな読んだノンフィクションについて聞いてみよう。
★魅力は①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳で判定しよう。
★グループの発表を聞いて、みんなに紹介したいと思った人の欄を赤で囲みましょう。

名前	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	魅力度
君ん	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	◎
君ん	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	◎
君ん	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	◎
君ん	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	◎
君ん	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	◎

資料9 評価・一般化学習

：「自己評価シート」

- 学習内容の振り返りと自己評価をする。
- 全員が習得すべき到達目標について生徒にもわかりやすく示す。
- ノンフィクションで学べることや応用できることについて確認や振り返りをする。

※学習シートの番号を記すことでシートを見ながらの自己評価が可能になり、学習の振り返りが確実なものになる。

※学習シートの項目の意味を全員に理解させ、単なるチェックにならないようにさせる。

※学び方の到達目標・観点や学びのつまずきを自覚させ、他の学習でも生かすことができるようにさせる。

学年 国語科 読書活動 (20) 総合学習—非連続の読書 佐田 隆

三年 (一)組 ()番氏名 ()

学習の振り返りをしよう

1 「炎を見る」の学習内容について自己評価をしてみましょう。
★...は...で...できた。○...まあまあできた。△...次回はがんばる。

番号	内容	評価
1	ノンフィクションの特徴について理解することができましたか。【学習プリント14】	☆
2	赤瓦に関する歴史や事実を正確に読み取ることができましたか。【学習プリント15】	☆
3	「炎を見る」の構成と会話・語りの効果について理解することができましたか。【学習プリント16】	☆
4	会話と語りから戦後の首里城復元の思いや興典と父の関係を読み取ることができましたか。【学習プリント17】	☆
5	多くの人が「読みたい」と思うような読書記録メモや読書報告文を書くことができましたか。【学習プリント18・19】	☆
6	読書記録をもとにして、わかりやすくノンフィクションの魅力が伝えられることができましたか。	☆
7	友達や読者の読書記録からノンフィクションの魅力を開き取ることができましたか。【学習シート20】	☆
8	忘れ物をしませんでしたか。	☆
9	発表を聞いて質問をすることができましたか。	◎
10	先生や友達の発言・発表を聞くなど、授業に集中することができましたか。	☆
11	疑問や感想、自分の考えをもちながら「炎を見る」を読むことができましたか。	☆

② 「炎を見る」の学習を通して、①学んだこと・初めて知ったこと、②考えたこと、③疑問や感想、自分の考えをもちながら「炎を見る」を読むことができましたか。

③ ノンフィクションの発表は、時間や場所が決められていない。だから、自分の好きなように発表することができる。また、自分の好きなように発表することができる。だから、自分の好きなように発表することができる。

自分で本を選択し読み解く生徒主体の学習では意欲に欠けたり選択で迷う生徒が出てくるのではないかと懸念していた。しかし、どの生徒も自分で本を選択し楽しそうに読書することができた。読書記録にまとめた内容をもとにして読書報告文を作成することで、どの生徒も抵抗なく文章に表していくことができた。「読書感想文にも使えそうだね」という生徒のつぶやきが何よりの証拠であり、学習したことを今後に生かそうとする意欲の表れである。

読書報告文を伝え合う学習では、本をもとにした会話が授業中ずっと途絶えることなく、生徒たちが意欲的・主体的にノンフィクションというジャンルに興味を持ち自然に話し合うことができていた。

(2) ノンフィクション教材の魅力との共鳴

範読後の感想ではノンフィクションを読むことで得られる価値を、最初の段階で書いている生徒が多くいた。このことは「炎を見る」というノンフィクション教材が生徒にとって魅力を感じる文章であり、ノンフィクションの読み方を学習するためのモデルとしても適した一つの教材であると言える。

それぞれの学習活動において学習シートを作成したことで、ノンフィクションの読み方を習得し、学んだことを活用する方法を学ぶことができたと考えられる（誌面の関係で詳細は省略する）。

(3) 限られた時間で楽しくシンプルに

今回の実践で生徒達の間で最も差が開いたのは「読書にかかる時間（読む速さ・考えるスピード）」である。授業内で読めてしまう生徒もいれば、授業時間内では読み切れず休み時間や家庭で読む生徒もいた。例えば対策としては、短いノンフィクションをいくつか集めて読み、感想を交流し合うという方法も、初めてノンフィクションを読む・読み方を読書に生かすということであれば可能であろう。

また、限られた授業時間数という中学校の条件を考えると、より短時間で学習の成果が上げられるように「学習シート」の中身をより精選しより明快にわかりやすいものを作成していく必要がある。

7 おわりに—生き方を考えるステップに—

本稿は新学習指導要領・国語科における新しい実践課題「自分の考えを持たせ、生き方を考えさせる・伝記教材」を対象に、広くノンフィクション教材論の立場から小中・高校でどのように扱えばいいのかについて、中学校の実践事例を通じて提案した。

これまで十分に研究・実践がされてこなかった国語科のジャンルである「伝記・ノンフィクション教材」の教材性・価値に注目し、指導のための学習過程・授業技術等について考察したものである。

特に、ノンフィクション教材（作品）に自分の生活経験からの切実な価値を見出し、主体的に学習に取り

組める学習過程論と学習シートを開発した。生き方を模索する中学生の時期にノンフィクション教材（作品）に出会い、自らの生き方を豊かに考えるきっかけになることを願っている。

誌面の制約もあり、各学習シートや授業・生徒の姿容等の詳細については記述することができなかったことをお断りする。なお、本稿の実践は吉川の勤務校である豊橋市立吉田方中学校の第3学年を対象に行った。本校生徒と先生方、「豊橋市中学校国語研究部・自主研修部」の諸先生方のご協力にも、記してお礼を申し上げる。

注 記

- 1 ドミニク・ライチェン編著『キーコンピテンシー—国際標準の学力を目指して—』（明石書店、2006.5）
- 2 佐藤洋一「これから求められる学力と国語科の指導」（『指導と評価』2009年10月号、図書文化）
- 3 佐藤洋一「2008年改訂・日本の国語教育—国際化（欧米化）スタンダードと日本的アイデンティティの行方—」（『愛知教育大学教育実践総合センター紀要 第12号』2009.2）
- 4 蔭山江梨子「“情報を読み解く力と読書力”」（『月刊国語教育』2006年11月号、東京法令出版）
- 5 佐藤洋一・蔭山江梨子「事実・生き方の記録（ノンフィクション）の『学び方・評価』学習」（『愛知教育大学研究報告第54輯（教育科学編）』2005.3）
- 6 佐藤洋一 連載「到達目標としての『言語技術』」（『国語教育』2003年4月～2004年3月、明治図書）
- 7 佐藤洋一「読書力の『習得・活用』学力・評価観の明確化から」（『同』2010年3月号臨時増刊、同上）

主な参考文献

- 1 高良倉吉『琉球王国』（岩波書店、1993.1）、外間守善『沖縄の歴史と文化』（中央公論社、1986.3）
- 2 本多勝一『事実とは何か』（朝日新聞社、1984.1）、篠田一士『ノンフィクションの言語』（集英社、1985.5）
- 3 佐藤洋一「二つの『活用型』学力をステップに」（『国語教育』2009年2月号臨時増刊、同上）、同「国語科『習得・活用型学力』の明確化で授業を変える」（『現代教育科学』2009年12月号、明治図書）、同編著『国語科を核に総合的な学習を創る』（同上、2000.4）、同編著『実践 国語科から展開するメディア・リテラシー教育』（同上、2002.9）等
- 4 蔭山江梨子「ノンフィクション（伝記・記録等）教材の開発」（『国語教育』2010年3月号臨時増刊、同上）、伊藤清英「『活用型学力』を軸にした教材開発を」（『国語教育』2010年3月号臨時増刊、同上）、松木尚美「到達目標の明確化を」（『国語教育』2010年3月号臨時増刊、同上）

（2010年9月14日受理）